校異源氏物語・よこ笛

こ権大納言のはかなくうせ給にしかなしさをあかすくちおしき物にこひしのひ給ひとおほかり六条の院にもおほかたにつけてたによにめやすき人のなくなるをはおしみ給御心にましてこれはあさ夕にしたしくまいりなれつゝ人よりも御心とゝめおほしたりしかはいかにそやおほしいつることは有なからあはれはおほくおり　くにつけてしのひ給御はてにもす経なとゝりわきせさせ給ふよろつもしらすかほにいはけなき御有さまをみ給ふにもさすかにいみしくあはれなれは御心のうちに又心さしたまふてこかね百りやうをなむへちにせさせ給ひけるおとゝは心もしらてそかしこまりよろこひきこえさせ給ふ大将の君もことゝもおほくし給とりもちてねんころにいとなみ給ふかの一てうの宮をもこの程の御心さしふかくとふらひきこえ給ふはらからの君たちよりもまさりたる御心のほとをいとかくは思きこえさりきとおとゝうへもよろこひきこえ給なきあとにもよのおほえをもくものし給けるほとのみゆるにいみしうあたらしうのみおほしこかるゝことつきせすやまのみかとは二の宮もかく人わらはれなるやうにてなかめ給也入道の宮もこのよの人めかしきかたはかけはなれ給ひぬれはさま　くにあかすおほさるれとすへてこのよをおほしなやましとしのひ給御をこなひの程にもおなし道をこそはつとめ給らめなとおほしやりてかゝるさまになりたまて後はゝかなきことにつけてもたえすきこえ給御てらのかたはらちかきはやしにぬきいてたるたかうなそのわたりのやまにほれる所なとの山さとにつけてはあはれなれはたてまつれ給とて御ふみこまやかなるはしにはるの野山かすみもたと　くしけれと心さしふかくほりいてさせて侍るしるしはかりになむ

　よをわかれいりなむみちはをくるともおなしところを君もたつねよいとかたきわさになむあるときこえ給へるを涙くみてみ給ほとにおとゝの君わたり給へり例ならす御まへちかきらいしともをなそあやしと御覧するに院の御ふみ成けりみ給へはいとあはれなりけふかあすかの心ちするをたいめんの心にかなはぬことなとこまやかにかゝせ給へりこのおなし所の御ともなひをことにおかしきふしもなきひしりことはなれとけにさそおほすらむかしわれさへをろかなるさまにみえたてまつりていとゝうしろめたき御おもひのそふへかめるをいと

くおしとおほす御かへりつゝましけにかき給て御つかひにはあをにひのあや
一かさねたまふかきかへ給へりけるかみのみ木ちやうのそはよりほのみゆるを
とりてみ給へは御てはいとはかなけにて
　うき世にはあらぬところのゆかしくてそむく山ちに思ひこそいれうしろめ
たけなる御けしきなるにこのあらぬところもとめ給へるいとうたて心うしとき
こえ給今はまほにもみえたてまつり給はすいとうつくしうらうたけなる御ひた
ひかみつらつきのおかしさたゝちこのやうにみえ給ていみしうらうたきをみた
てまつりたまふにつけてはなとかうはなりにしことそとつみえぬへくおほさる
れは御木ちやうはかりへたてゝ又いとこよなうけとをくうと　くしうはあらぬ
程にもてなしきこえてそおはしけるわか君はめのとのもとにね給へりけるおき
てはひいて給て御袖をひきまつはれたてまつり給さまいとうつくしゝろきうす
ものにからのこもんのこうはいの御そのすそいとなかくしとけなけにひきやら
れて御身はいとあらはにてうしろのかきりにきなし給へるさまは例のことなれ
といとらうたけにしろくそひやかにやなきをけつりてつくりたらむやうなりか
しらはつゆくさしてことさらに色とりたらむ心ちしてくちつきうつくしうにほ
ひまみのひらかにはつかしうかほりたるなとはなをいとよく思ひいてらるれと
かれはいとかやうにきはゝなれたるきよらはなかりし物をいかてかゝらん宮に
もにたてまつらす今よりけたかくもの　くしうさまことにみえ給へるけしきな
とはわか御かゝみのかけにもにけなからすみなされ給ふわつかにあゆみなとし
給ほとなりこのたかうなのらいしになにともしらすたちよりていとあはたゝし
うとりちらしてくひかなくりなとし給へはあならうかはしやいとふひんなりか
れとりかくせくひ物にめとゝめ給ふとものいひさかなき女はうもこそいひなせ
とてわらひ給かきいたき給て此君のまみのいとけしき有かなちいさきほとのち
こをあまたみねはにやあらむかはかりのほとはたゝいはけなきものとのみゝし
を今よりいとけはひことなるこそわつらはしけれ女宮ものし給めるあたりにか
ゝるひとおひいてゝ心くるしきことたかためにもありなむかしあはれそのをの
　くのおい行するまてはみはてんとすらむやは花のさかりはありなめとうちま
もりきこえたまふうたてゆゝしき御ことにもと人ゝはきこゆ御はのおいゝつる
にくひあてむとてたかうなをつとにきりもちてしつくもよゝとくひぬらし給へ
はいとねちけたる色このみかなとて
　うきふしもわすれすなからくれ竹のこはすてかたき物にそありけるとゐて
はなちての給かくれとうちわらひてなにともおもひたらすいとそゝかしうはひ

おりさはき給月日にそへて此君のうつくしうゆゝしきまておいまさり給にまことにこのうきふしみなおほしわすれぬへし此人のいてものし給へき契にてさるおもひの外のこともあるにこそはありけめのかれかたかなるわさそかしとすこしはおほしなをさる身つからの御すくせもなをあかぬことおほかりあまたつとへ給へるなかにも此宮こそはかたほなるおもひましらす人の御有さまもおもふにあかぬところなくて物し給ふへきをかくおもはさりしさまにてみたてまつることゝおほすにつけてなむすきにしつみゆるしかたく猶くちおしかりける大将の君はかのいまはのとちめにとゝめし一ことを心ひとつにおもひいてつゝいかなりしことそとはいときこえまほしう御けしきもゆかしきをほの心えておもひよらるゝこともあれはなかなかうちいてゝきこえんもかたはらいたくていかならむつゐてにこのことのくはしき有さまもあきらめ又かの人の思ひいりたりしさまをもきこしめさせむとおもひわたり給秋の夕のものあはれなるに一条の宮をおもひやりきこえ給てわたり給へりうちとけしめやかに御ことゝもなとひき給ふほとなるへしふかくもえとりやらてやかてその南のひさしにいれたてまつり給へりはしつかたなりける人のいさりいりつるけはひともしるくきぬのをとなひもおほかたのにほひかうはしく心にくき程なり例のみやす所たいめんし給てむかしの物かたりともきこえかはし給わか御殿のあけくれ人しけくて物さはかしくをさなき君たちなとすたきあわて給ふにならひ給ていとしつかに物あはれ也うちあれたる心ちすれとあてにけたかくすみなし給てせむさいの花ともむしのねしけきのへとみたれたる夕はへをみわたし給わこんをひきよせ給へれはりちにしらへられていとよくひきならしたるひとかにしみてなつかしうおほゆかやうなるあたりにおもひのまゝなるすき心ある人はしつむることなくてさまあしきけはひをもあらはしさるましきなをもたつるそかしなとおもひつゝけつゝかきならし給ふこきみのつねにひき給ひしことなりけりおかしきてひとつなとすこしひき給てあはれいとめつらかなるねにかきならし給しはやこの御ことにもこもりて侍らんかしうけたまはりあらはしてしかなとの給へはことのをたえにしのちよりむかしの御わらはあそひのなこりをたにおもひいてたまはすなんなりにて侍へめる院のおまへにて女宮たちのとり　くの御ことゝも心みきこえ給しにもかやうのかたはおほめかしからすものし給となむさためきこえ給ふめりしをあらぬさまにほれ　くしうなりてなかめすくし給めれは世のうきつまにといふやうになむみ給るときこえ給へはいとことはりの御おもひなりやかきりたにあるとうちなかめてことはおしやり給へれはかれなをさらはこゑにつた

はることもやときゝわくはかりならさせ給へものむつかしうおもふたまへしつ
めるみゝをたにあきらめ侍らんときこえ給をしかつたはる中のをはことにこそ
は侍らめそれをこそうけたまはらむとはきこえつれとてみすのもとちかくおし
よせ給へとゝみにしもうけひき給ふましきことなれはしいてもきこえ給はす月
さしいてゝくもりなき空にはねうちかはすかりかねもつらをはなれぬうらやま
しくきゝ給ふらんかし風はたさむくものあはれなるにさそはれてさうのことを
いとほのかにかきならし給へるもおくふかきこゑなるにいとゝ心とまりはてゝ
中　くにおもほゆれはひわをとりよせていとなつかしきねにさうふれんをひき
給おもひをよひかほなるはかたはらいたけれとこれはことゝはせ給へくやとて
せちにすのうちをそゝのかしきこえ給へとましてつゝましきさしいらへなれは
宮はたゝ物をのみあはれとおほしつゝけたるに
　ことにいてゝいはぬもいふにまさるとは人にはちたるけしきをそみるとき
こえ給にたゝすゑつかたをいさゝかひき給ふ
　ふかきよのあはれはかりはきゝわけとことよりかほにえやはひきけるあか
すおかしき程にさるおほとかなるものゝねからにふるき人の心しめてひきつた
へけるおなしゝらへのものといへとあはれに心すこきものゝかたはしをかきな
らしてやみ給ぬれはうらめしきまておほゆれとすき　くしさをさま　くにひき
いてても御らむせられぬるかな秋のよふかし侍らんもむかしのとかめやとはゝ
かりてなむまかて侍ぬへかめる又ことさらに心してなむさふらふへきをこの御
ことゝものしらへかへすまたせたまはんやひきたかふることも侍ぬへきよなれ
はうしろめたくこそなとまおにはあらねとうちにほはしをきていて給こよひの
御すきには人ゆるしきこえつへくなむありけるそこはかとなきいにしへかたり
にのみまきらはさせ給てたまのをにせむ心ちもし侍らぬのこりおほくなんとて
御をくり物にふえをそへてたてまつり給ふこれになむまことにふるきこともつ
たはるへくきゝをき侍しをかゝるよもきふにうつもるゝもあはれにみ給ふるを
御さきにきをはんこゑなむよそなからもいふかしう侍るときこえ給へはにつか
はしからぬすいしんにこそは侍へけれとてみ給ふにこれもけによとゝもに身に
そへてもてあそひつゝ身つからもさらにこれかねのかきりはえふきとおさすお
もはん人にいかてつたへてしかなとおり　くきこえこち給しを思ひいて給ふに
今すこしあはれおほくそひて心みにふきならすはんしきてうのなからはかりふ
きさしてむかしをしのふひとりことはさてもつみゆるされ侍りけりこれはまは
ゆくなむとていて給ふに

露しけきむくらのやとにいにしへの秋にかはらぬむしのこゑかなときこえいたしたまへり

よこふえのしらへはことにかはらぬをむなしくなりしねこそつきせねいてかてにやすらひ給ふに夜もいたくふけにけり殿にかへり給へれはかうしなとおろさせてみなね給にけりこの宮に心かけきこえ給てかくねんころかりきこえ給そなと人のきこえしらせけれはかやうによふかし給ふもなまにくゝていり給ふをもきく　くねたるやうにてものし給なるへしいもとわれといるさの山のとこゑはいとおかしうてひとりこちうたひてこはなとかくさしかためたるあなむもれやこよひの月をみぬさとも有けりとうめき給ふかうしあけさせ給てみすまきあけなとし給てはしちかくふし給へりかゝる夜の月に心やすくゆめみる人はあるものかすこしいて給へあな心うなときこえ給へと心やましうゝちおもひてきゝ忍ひ給君たちのいはけなくねをひれたるけはひなとこゝかしこにうちして女はうもさしこみてふしたる人けにきはゝしきに有つるところのありさまおもひあはするにおほくかはりたりこのふえをうちふき給ひつゝいかになこりもなかめ給らん御ことゝもはしらへかはらすあそひたまふらむかし宮す所もわこんの上すそかしなとおもひやりてふし給へりいかなれはこきみたゝおほかたの心はへはやむことなくもてなしきこえなからいとふかきけしきなかりけむとそれにつけてもいといふかしうおほゆみをとりせむこそいと　くおしかるへけれ大かたのよにつけてもかきりなくきくことはかならすさそあるかしなとおもふにわか御なかのうちけしきはみたるおもひやりもなくてむつひそめたるとし月の程をかそふるにあはれにいとかうおしたちてをこりならひ給へるもことはりにおほえ給けりすこしねいり給へる夢に彼ゑもんのかみたゝありしさまのうちきすかたにてかたはらにゐて此ふえをとりてみるゆめのうちにもなき人のわつらはしうこのこゑをたつねてきたるとおもふに

笛たけにふきよる風のことならはするゑのよなかきねにつたへなむおもふかたことに侍りきといふをとはんとおもふほとにわか君のねをひれてなき給ふ御こゑに覚給ぬ此君いたくなき給てつたみなとし給へはめのともおきさはきうへも御となふらちかくとりよせさせたまてみゝはさみしてそゝくりつくろひていたきてゐ給へりいとよくこえてつふ　くとおかしけなるむねをあけてちなとくゝめ給ちこもいとうつくしうおはする君なれはしろくおかしけなるに御ちはいとかはらかなるを心をやりてなくさめ給ふおとこ君もよりおはしていかなるそなとの給ふうちまきしちらしなとしてみたりかはしきに夢のあはれもまきれぬ

へしなやましけにこそみゆれいまめかしき御有さまの程にあくかれたまうてよ
ふかき御月めてにかうしもあけられたれは例のものゝけのいりきたるなめりな
といとわかくおかしきかほしてかこち給へはうちわらひてあやしのものゝけの
しるへやまろかうしあけすはみちなくてけにえいりこさらましあまたの人のお
やになり給ふまゝに思いたりふかく物をこその給なりにたれとてうちみやり給
へるまみのいとはつかしけなれはさすかに物もの給はていてたまひねみくるし
とてあきらかなるほかけをさすかにはち給へるさまもにくからすまことに此君
なつみてなきむつかりあかし給つ大将のきみもゆめおほしいつるに此ふえのわ
つらはしくもあるかな人の心とゝめておもへりしものゝゆくへきかたにもあら
す女の御つたへはかひなきをやいかゝおもひつらんこの世にてかすにおもひい
れぬこともかのいまはのとちめに一ねむのうらめしきもゝしはあはれとも思に
まつはれてこそはなかきよのやみにもまとふわさなゝれかゝれはこそはなにこ
とにもしふはとゝめしとおもふよなれなとおほしつゝけてをたきにす経せさせ
給ふ又かの心よせのてらにもせさせ給て此ふえをはわさと人のさるゆへふかき
物にてひきいて給へりしをたちまちにほとけの道におもむけんもたうときこと
ゝはいひなからあへなかるへしと思て六条の院にまいり給ぬ女御の御方におは
しますほと成けり三宮みつはかりにてなかにうつくしくをはするをこなたにそ
又とりわきておはしまさせ給けるはしりいて給て大将こそ宮いたき奉りてあな
たへゐておはせと身つからかしこまりていとしとけなけにの給へはうちわらひ
ておはしませいかてかみすのまへをはわたり侍らんいときやう　くならむとて
いたきたてまつりてゐ給へれは人もみすまろかほはかくさむなを　くとて御袖
してさしかくし給へはいとうつくしうていてたてまつり給ふこなたにも二宮の
わか君とひとつにましりてあそひ給ふうつくしみておはします成けりすみのま
のほとにおろし奉り給を二宮みつけ給てまろも大将にいたかれんとの給を三宮
あか大将をやとてひかへ給へり院も御覧していとみたりかはしき御有さまとも
かなおほやけの御ちかきまもりをわたくしのすいしんにりやうせむとあらそひ
給よ三宮こそいとさかなくおはすれつねにこのかみにきほひまうし給ふといさ
めきこえあつかひ給ふ大将もわらひて二宮はこよなくこのかみ心にところさり
きこえ給ふ御心ふかくなむおはしますめる御としのほとよりはおそろしきまて
みえさせ給ふなときこえ給ふうちゐみていつれもいとうつくしとおもひきこえ
させ給へりみくるしくかるかるしき公卿のみさなりあなたにこそとてわたり給
はむとするに宮たちまつはれてさらにはなれ給はす宮のわか君は宮たちの御つ

らには有ましきそかしと御心のうちにおほせと中　くその御心はへをはゝ宮の御心のおにゝやおもひよせ給らんとこれも心のくせにいとおしうおほさるれはいとらうたきものにおもひかしつきゝこえ給大将は此君をまたえよくもみぬかなとおほしてみすのひまよりさしいて給へるにはなのえたのかれておちたるをとりてみせたてまつりてまねき給へはゝしりおはしたりふたあゐのなをしのかきりをきていみしうしろうひかりうつくしきことみこたちよりもこまかにおかしけにてつふ　くときよらなりなまめとまるところもそひてみれはにやまなこゐなとこれは今すこしつようかとあるさまゝさりたれとましりのとちめおかしうかをれるけしきなといとよくおほえ給へりくちつきのことさらにはなやかなるさましてうちゑみたるなとわかめのうちつけなるにやあらむおとゝはかならすおほしよすらんといよ　く御けしきゆかし宮たちはおもひなしこそけたかけれよのつねのうつくしきちこともとみえ給ふにこの君はいとあてなるものからさまことにおかしけなるをみくらへたてまつりつゝいてあはれもしうたかふゆへもまことならはちゝおとゝのさはかりよにいみしくおもひほれたまてことなのりいてくる人たになきことかたみにみるはかりのなこりをたにとゝめよかしとなきこかれ給ふにきかせたてまつらさらむつみえかましさなとおもふもいていかてさはあるへきことそと猶心えすおもひよるかたなし心はへさへなつかしうあはれにてむつれあそひたまへはいとらうたくおほゆたいへわたり給ぬれはのとやかに御ものかたりなときこえておはするほとに日くれかゝりぬよへかの一条の宮にまうてたりしにおはせし有さまなときこえいて給へるをほゝゑみてきゝおはすあはれなるむかしのことかゝりたるふし　くはあへしらひなとし給ふにかのさうふれんの心はへはけにいにしへのためしにもひきいてつへかりけるおりなから女はなを人の心うつるはかりのゆへよしをもおほろけにてはもらすましうこそありけれとおもひしらるゝことゝもこそおほかれすきにしかたのこゝろさしをわすれすかくなかきよういを人にしられぬとならはおなしうは心きよくてとかくかゝつらひゆかしけなきみたれなからむやたかためも心にくゝめやすかるへきことならむとなんおもふとの給へはさかし人のうへの御をしへはかりは心つよけにてかゝるすきはいてやとみたてまつり給ふなにのみたれか侍らむ猶つねならぬよのあはれをかけそめ侍りにしあたりに心みしかく侍らんこそなか　くよのつねのけんきありかほにはへらめとてこそさうふれんはこゝろとさしすきてことい て給はんやにくきことに侍らましものゝついてにほのかなりしはおりからのよしつきておかしうなむ侍しなにことも人によりことにし

たかふわさにこそ侍るへかめれよはひなともやう　くいたうわかひ給ふへきほとにもゝのし給はす又あされかましうすき　くしきけしきなとに物なれなともし侍らぬにうちとけ給にやおほかたなつかしうめやすき人の御有さまになむものし給けるなときこえ給ふにいとよきついてつくりいてゝすこしちかくまいりより給てかの夢かたりをきこえ給へはとみにものもの給はてきこしめしておほしあはすることもありそのふえはこゝにみるへきゆへある物なりかれはやうせい院の御ふえなりそれをこしきふ卿の宮のいみしきものにし給けるをかのゑもんのかみはわらはよりいとことなるねをふきいてしにかんしてかの宮のはきのえんせられける日をくり物にとらせ給へるなり女の心はふかくもたとりしらすしかものしたるなゝりなとの給てするのよのつたへまたいつかたにとかは思ひまかへんさやうにおもふなりけんかしなとおほしてこのきみもいといたりふかき人なれは思ひよることあらむかしとおほすその御けしきをみるにいとゝはゝかりてとみにもうちいてきこえ給はねとせめてきかせたてまつらんのこゝろあれはいましもことのついてに思ひいてたるやうにおほめかしうもてなしていまはとせしほとにもとふらひにまかりて侍しになからむのちのことゝもいひをき侍し中にしか　くなんふかくかしこまり申よしを返ゝものし侍しかはいかなることにか侍りけむいまにそのゆへをなんえおもひ給へより侍らねはおほつかなく侍るといとたと　くしけにきこえ給にされはよとおほせとなにかはそのほとの事あらはしの給へきならねはしはしおほめかしくてしか人のうらみとまるはかりのけしきはなにのついてにかはもりいてけんと身つからもえおもひいてすなむさていましつかにかの夢はおもひあはせてなむきこゆへきよるかたらすとか女はうのつたへにいふなりとの給ておさおさ御いらへもなけれはうちいてきこえてけるをいかにおほすにかとつつましくおほしけりとそ